

TALLER
MECANICO

de G. GONZALEZ

修繕其他
プランチヤ機
カルデーの
繕其の

SAN JOSE 220
U. T. 38 - 5923

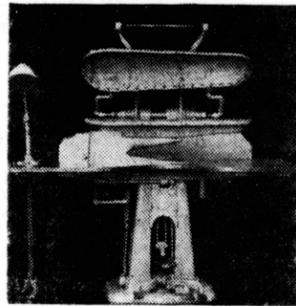
時計修繕
電話で御一報次第参上致します
市内カビルド街一七七八
電話(五二)〇九三三
守屋利夫

CABILDO 1178
U. T. 52 - 0933

設備完全
仕事入念
齊藤染色工場

BELGRANO 3061
U. T. 45 - LORIA 5442

邦人間唯一の
染色工場



最新案
TBP
カルデーセント
リファグ・メー
のプランチヤ機
製造販賣修繕
高橋秀雄

Av. La Plata 1416
U. T. 60 - 9421

Foto TERAKAWA

FLORIDA 580
U. T. 31 - 8571

晝夜撮影
出張にも應じます
寺川寫真館

TOYOKEN

25 DE MAYO 356 U. T. 31 - 0739

東洋軒
料理部
純日本料理
折詰弁当
丼物一切種類
晝食
配達致し
相変らず
市引立を

Masajista Japonés

SEGUROLA 1992-6
U. T. 67 - 4591

日本式マツサージ鍼灸
リウマチス、神経痛、呼吸器病
胃腸病その他一切の疾病、幼
日本膏薬は西坂商店で
取次致して頂ます
山田忠重

GRAN PREMIO EXPOSICION DE LA
INDUSTRIA ARGENTINA 1933 - 34

BILLARES BRUNSWICK
BANDAS MONARCH
ULTIMA NOVEDAD "SNOOKER"

Solicite informes



Cía. Brunswick Sudamericana S. A.

1894 - CANGALLO - 1900
U. T. 47, Cuyo 3577 - Buenos Aires

MATSUYA HOTEL

TACUARI 580
U. T. 34 - 1344

親切丁寧
顧客本意
浴室完備
まつや旅館
料理化を、井物一切
日本菓子製造致す
の会食に應じます

だるま亭
▲井物一品料理仕出し
すし、おぼろ、饅頭賣出し
御婚札、御誕生の祝儀
御注文に應じます
松田清市

BOLIVAR 1556
U. T. 23 - 4092

"PLATA BRAUN" MARCA REGISTRADA



カフエーバー
レストラント用の
マル製品の
御用命は日本人
に絶大の信用ある
MANMANN
月賦拂の御注文に
應じます

BERNARDO BRAUN e HIJO
CORRIENTES 4349 U. T. 54, Darwin 4111

A L M A C E N
NISHISAKA

AUSTRALIA 1101
U. T. 21-2915

醤油味噌
澤巻香物 製造販賣
日本食料品輸入販賣
皇中万醬油
値段勉強配達迅速
西坂實太商店

DANCING
COLON
de MANOLO GOMEZ
LEANDRO N. ALEM 622
U. T. 31-1828

御酒其他の御飲料
品質本位・正真正正保証付
タシコ
タシコのリズムに合したホルデー
ニヤのサビビスマで南国情緒を
満喫あれ

領事館銀行、船会社、近
御乗船御下船の便
御下宿
御旅館
地方へ出立の際は是非御参上を
昭和館

25 DE MAYO 330
U. T. 31 - 5145
BUENOS AIRES

"KEROGAS"

Ing. F. STUCKLER

U. T. 51-3252 PACHECO 3260

最新型ケマドリレス及び
タンクレス・フレッシュオン
製作販賣
諸種ケマドリ修繕・部分品
販賣・日本人間にも多数顧客
在りし仕事は入念迅速・電話
で御一報次第至急参上致します

TALLER GRAFICO

NIPPON

SANTIAGO DEL ESTERO 975

U. T. 23 - 7864

刷印版活文西
堂ンホツニ
種各他其・刺名簡封等便
寸寸上敬命用御物不の少多
総 川 北

照尔然丁時報

内山新任駐亞公使
兼特派大使を歓迎す

歴史的なる轉機期に直面せる我等が祖國日本の対東外交を...

以上新任の時機、新公使の経歴共に其の最適を得たものとあり、此の新公使にして日華...

新駐内山公使は既に領事として在東同胞には御馴染みの人...

彰徳出以未

攻畧せる敵陣地五十に達す
要害地封鎖を我軍易々占領

(彰徳十六日)京漢線の我軍は敵軍を散らし、十五日新野北方田里の地を占領し、この地は敵の新野陣地の核心を占領するとの事...

突如独逸軍隊が独逸境に移動開始

(ワドウス十六日)連年の独逸會議に際して、独逸は東部内閣改組問題につき最後通牒的要求を述べた...

政変正に起るとする
英領印度十三州

政治犯の解放不干渉要求、干渉を被るべきは、新憲法を執行する時である...

ありそふ女 三月一日出帆

於ける日本軍の作戦開始は、鄭州方面の大規模な掃蕩して、十五日に鄭州を占領した...

我軍の後方攪乱に
上密の發敵狂奔す

(昨早十五日)上密の奪回、敵は昨日十四日、上密西南方面に奔る兵力を...

日本の回答は新軍縮
會議開催の出発点

(紐育十五日)紐育ポスト紙は十五日の紙上、新憲法を執行する時である...

國際競技会を發揮せん
新興空の日本の眞價

(羅馬十五日)何太利飛行會主催北マリアの伊本利領り...

漢口の國府大本營大恐慌 早くも湖南へ移轉準備開始

（東京十五日）十五日朝日新聞上海特派員は、漢口津浦線並に京漢線方面の我軍の進撃は、漢口の國民政府大本營は一大恐慌を起して、日本軍は津浦線に於ては洛寧、野埠の兩地より、京漢線に於ては洛陽、長垣の兩方面より一度は龍海線の中斷を敢行し、一方京漢線並に直下する部隊は河南の新地に進軍するものあり、として徐州方面に集結中の大軍は龍海線に更に分散せしめつつある。

皇軍三方から猛進撃

漢口よりの消息
めは行動してある模様である。又武漢を中心とする國民政府の分裂、漢口は突如と見せしめられ、抗戦の前途は表面共同戦線下にある、西北は各地に共産党の國民党

と右翼のこの團體は衣社の等、漢口の深刻化しつつあることは見逃せぬものと云つた。

上旬包圍を完了 一斉攻撃の火蓋切る

（長陽十五日）横尾倉林、田代各部隊は十四日夜上旬包圍を完了、十五日朝一斉に攻撃の火蓋を切つた、斯くて上旬五千人の敵は刻々全滅の悲運に陥りつつある。

鉄橋爆破我軍の北進阻止

（南京十五日）淮河の死命を制した敵は我軍の徐州への北上を極度に恐れ、淮河以北津浦線の各鉄橋を十四日以来爆破し北進阻止の狂行してゐる。

世界軍縮會議召集方々

ルーズベルト大統領に要請
▽米上院に提出された決議案
（華府十四日）民主上院議員ウィリアム・キングは十四日上院にルーズベルト大統領は世界軍縮會議を召集すべしとの決議案を提出した。決議案要旨左の通り

世界の軍備増大は全世界の國民に深き懸念を惹起し、國際紛争を挑発するものと見られ、争を期する軍備の増大は國民と各産業に租税の負擔を重課し、國際貿易を阻害するものがある。故に大統領は世界平和の爲めにワシントンに各國政府を招請して軍縮會議を

合衆國太平洋艦隊の秘密演習始まる

（サンディエゴ十四日）合衆國艦隊の艦隊主力艦八隻、甲級巡洋艦十二隻、乙級巡洋艦五隻、航空母艦三隻、潜水艦八隻、駆逐艦五十二隻並に海軍、海軍陸戦隊約四十隻は十四日突如サンディエゴ根拠地を出航、ニミ、メキシコ号塔來り司令官ブロッツ提督指揮下に秘密演習に入つた。

我が陸戦隊 牟平縣城に入城

（芝罘十五日）我が海軍陸戦隊は海軍飛行隊の空爆による協力を得て十四日午後一時完全には牟平縣城（芝罘東方）の敵を掃蕩した。牟平縣は我が陸戦隊の入城により全く平

新駐支英大使 戦争の一段落まで 國書捧呈を延期

（上海十五日）確信に依れば近く来滬する駐支英大使カークは本國政府の訓令に依り上海に大使館を設置、國民政府の敵在する漢口、長沙、重慶などは臨時辦事處を置いて外交折衝を行はしめることとし、戦争の一段落まで相當期間國書捧呈を延期して形勢觀望の筈である。

航空兵團長を 司令官と改称

（東京十五日）陸軍では今回航空兵團長を司令官と改称した。改称することには決定、十五日軍令を以て公布、即日施行された。

村米同志会を創立 日米國交の親善を計る

（東京十五日）今次事変を通じて日米國民が終始一貫中立の態度を堅持してゐるは對し日本國民として感謝の意を表すべく政友会の岩瀬亮、芥三控室の三木武夫その他發起の下に来る十九日午後六時半より日比谷公會堂に於て日米親善國民大会を開催することに決つた。大会席上宣言決議を述べ、これを米國に打電するが、その要旨は左の如く同時に「對米同志会」を創立し國民的立場から親善運動を統括することに決つた。

成功の見込無い 外交委員長の見解

（東京十五日）外交委員長の見解は成功の見込無い。新國際會議は成功する見込みは先づ無い。

ケベウ十数名越境 滿洲國軍に不法射撃

（新京十四日）十四日午後、ケベウ十数名越境し、滿洲國軍に不法射撃を受けた。地並中の滿洲國軍に不法射撃を加へたので、滿洲國軍は直ちに復讐これに擊退した。尚ほ滿洲國政府は右に關し、聯邦政府に抗議を發した。

空兵團長を航空兵團司令官と改称することには決定、十五日軍令を以て公布、即日施行された。

（東京十五日）今次事変を通じて日米國民が終始一貫中立の態度を堅持してゐるは對し日本國民として感謝の意を表すべく政友会の岩瀬亮、芥三控室の三木武夫その他發起の下に来る十九日午後六時半より日比谷公會堂に於て日米親善國民大会を開催することに決つた。大会席上宣言決議を述べ、これを米國に打電するが、その要旨は左の如く同時に「對米同志会」を創立し國民的立場から親善運動を統括することに決つた。

日米國民は日米國交の親善を計る

ラキリアム・ブツ
ツシキベルド商会
代理人
グイセシテ
シアリエロ

和 優良球根
入 各種販賣

RIVADAVIA 5871
U. T. 68-5682

日本産敷 建築
文化住宅
家具製造修理其他御用命を願ふ
大工指物師 山本 玄
Av. del TEJAR 4817
U. T. 741 (Florida) 3150

歯科医療の
御相談に應じます
日本歯科 山本実雄
医学士
應接時間 午前八時-午後十時
市内エントレリオス街九七三
第一階・ロ・ニ・三・一・五・四・二

JUGUETERIA
TORRO
SARMIENTO 540
U. T. 34 - Defensa, 1687

玩具御買求むは
廉價・在庫品豊富の
トロロ玩具店
日本製玩具あり
御申込次第即座送付

**MEDICINAL
NEWS**
28 - Suipacha - 28

FRANCISCO SANTERO
EX-MECANICOS Cia. HOFFMAN
Calle Daniel 1438
U. T. 45 - 0294

新案 TSB 印
フアンチヤ機並にセン
トリアガ製作販賣
カライ街三二四一番角

自宅出張撮影
複寫引伸し
荷に古寫真でも御引受け致し
市内サルタ街一五八
ロ・ト・三七一五七〇四
寫真師 佐藤貞則

淋病梅毒 治療代は全治後頂きます
肺結核新療法 月十シ松の便あり
婦人科・電気治療科
X光線科 (各科専門医十名)
診療科三ツ
午前九時-十二時
午後二時-八時
日曜祭日は午前中

Ernesto Coco
15 DE NOVIEMBRE 2335
U. T. 28 - 2835

ケロセン廉價
永年日本人洗濯店
並に御家庭の
御職員を蒙つて居ります

ホフマン式フランチヤ機
は發賣以來十五年
顧客間に絶大の信用を得て居ります
何卒定評ある本機を御使用下さい

Hans Von Engelbrechten
REPRESENTACIONES
BELGRANO 525
U. T. 34-1497 - Buenos Aires

東洋歯科 國分鉄藏
医学士
左記に於て歯科医療の
御相談に應じます
ドクトルエドアルド・キンターニヤ歯科医院
市内エドラス街六九二、四階
デパルタメントN 電話三三三三三三

SEMILLERIA
Juan Calé & Cia.
CASA MATRIZ
128 - PUEYREDON - 123
U. T. 47, CUYO 0065 y GUYO 0066
COOP. TEL. 1137, OESTE

Sucursal No. 1: CORRIENTES 3175
U. T. 62, Mitre 1954-C T. 323, Oeste

Sucursal No. 2: RIVADAVIA 2425
U. T. 47 Cuyo 8098-C T. 1105, Centr

琉球三味線教授
日 土曜日午後二時より
初等科
日曜日中等科
安里電榮
MOMPON 1646
U. T. 28, B. Orden 8424

RESTAURANT
PAGODA
A. P. R. Saenz Peña 614
U. T. 33 - 3738

中華樓 餐室
世界に誇る美味と營養
是非一度御試食願ふませ

ホフマン式フランチヤ機
並にカルテラの修繕取付
一切廉價に引受けます
ホフマン社
指定修繕所 トリビオゴラス
Carlos Calvo 1159
U. T. 28 - 4564

SASTRERIA "TORRO"
SARMIENTO 654
U. T. 35, Libertad 1392

品質本位
仕立入念
八十五ペソ
より各種
トロー
高等
洋服店

二の成告切替
御持参の方は
一刻も遅く
一刻も早く

御旅館 双葉
御下宿 双葉
和洋食目極めに應じます
皆様の御愛顧を願ひます
尾崎幸千代
USPALLATA 818
U. T. 28 (B. Orden) 5735

CLINICA MEDICA CANGALLO

CALLE CANGALLO 1542

Atendida personalmente por su Director

Dr. A. GODEL

Médico Cirujano

最新式獨乙療法
 淋病—根治療法
 梅毒—六〇六号、九一四号
 婦人病、心臓、胃腸、各種專門
 肺腎臟神經系統
 ◎日本人方には初診無料
 X光線、デアテルミ、血液検査
 診察日—自午前九時 至 十二時
 自午後三時 至 九時
 日曜、祭日は午前中

無痛歯抜 ニベソ
 セメント充填 五ベソ
 金冠 拾五ベソ
 金入歯 拾五ベソ
 総入歯 六拾五ベソ
 診察時間
 午前九時より
 午後八時まで

DR. E. BULJEVICH

BDO. DE IRIGOYEN 1404
 U. T. 23 - (B. O.) 0279

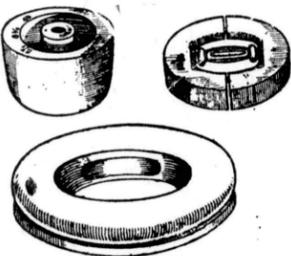
GRAN "EL ASAHI" TALLER

de MIYAZONO Hnos.

Casa Matriz:
 CHARCAS 1873 - U. T. 44, JUNCAL 4366
 Sucursales:
 BME. MITRE 2511 - U. T. 47, CUYO 7159
 RIVADAVIA 5202 - U. T. 60, Caballito 4738
 BUENOS AIRES
 CONSTITUCION 148 - U. T. S. Fernando 46
 SAN FERNANDO, (F. C. C. A.)

LUIS GORI Hnos.

LIMA 1029 U. T. 23-2897



帽子木型製造工場

チントレリアの仕立の
 上り下り型は、善悪
 に依ります。
 仕事を上り下りする
 には、良い型を使はね
 ば、なりません。
 弊工場は、チントレリア
 「テラコロラ」アルガラ
 「不」型等流行型あり
 かつ、型を最新の市
 場供給し、田舎から
 の注文にも應じます。

CAFE JAPONES

de K. UCHINO

LAS HERAS 667

TUCUMAN



ツクマン市
 内野喜吉

KEROFIX

DEL Sr. ALEMAN (MARTIN)

M. SEITZ & Cia.

Exposición y Venta:

DEFENSA 321
 U. T. 33-1529

Talleres:

CHARCAS 4511
 U. T. 71-9998

ブランチャ機
 カルデー用のケマ
 ドレスデケロセン
 製作販売、修繕取
 付交換引受け。
 当方はカーサボル
 カン以来御馴染の
 独り人で日本人間
 数多の顧客を有し
 仕事は入念迅速、電
 話で御一報次第至
 急参上致します。

CAFE Y CERVECERIA LA "SATUMA"

有水武二
 久松純雄
 竹内武義
 加藤吉隆

General HORNOS 54

U. T. 23 - 0526

BUENOS AIRES

Casa MALIS

DEFENSA 717
 U. T. (33) 4382

カフェー店
 就労用衣類の
 御用命は弊店へ
 サコシ、コ、ミン
 黒チヤ、コ、サ、サ
 黒サコ、ハベソ
 上着、至、キ、キ、キ



Herrero y Magioncalda

AUTOMOVILES Y CAMIONES
 NUEVOS Y USADOS

Reparaciones en general

La casa más acreditada entre la soleso-
 tividad japonesa

PAVON 3737

(LANUS)

U. T. 241, Lanús 793

新旧自働車
 修繕並に販賣
 当店は日本人諸君間に
 絶大の信用と数多の顧
 客を有して居ります



GRAN

MERCERIA
 Y BAZAR

Casa fundada en el año 1923

PRIMERA Y UNICA CASA JAPONESA

Últimas Novedades Para la Moda
 Creaciones en Artículos Japoneses

SE ATIENDEN PEDIDOS TELEFONICOS

優良品
 廉価販賣
 具服、大物、小間物
 雑貨、最新流行婦
 人用品及び御家庭
 用品一切小賣店
 同胞に限り割引
 保険事務一切
 公認代理人
林甚次郎

C. Pellegrini
 1153

U. T. 41,
 Plaza 1306

TALLER MECANICO A. MENDEZ

CALLE VERA 737 - U. T. DARWIN 1108



カルボンナフタ又はガス洗
 乾燥機(寸廻し又はモートル)
 其他洗濯機械の修繕に應ず

Llega hoy el embajador especial del Japón



S. E. el nuevo Enviado Extraordinario y Ministro Plenipotenciario del Japón, Sr. I. Uchiyama

A bordo del vapor Massilia, que arribará hoy a la Dársena Norte, llega el nuevo ministro del Japón, señor Iwataro Uchiyama, que viene acompañado de su señora esposa.

El ministro Uchiyama reemplazará al Dr. Jiro Yamasaki, el más popular de los ministros japoneses que tuvo Buenos Aires, quien se acogió a los beneficios del retiro.

El señor Uchiyama, uno de los ministros más jóvenes del Imperio del Japón, que ostenta una foja de servicios eminentes con ascensos rápidos de acuerdo con sus méritos, que está conceptualizado como el diplomático nipón que mejor conoce Sud América, viene investido, además de su elevado cargo de ministro plenipotenciario, con el carácter de enviado especial para representar a Su Majestad el Emperador, en las ceremonias de la transmisión del mando presidencial en la Argentina que tendrá lugar el domingo próximo.

Si la importancia de la Nación Argentina, cuyo prestigio internacional acrecienta día a día, exigía la presencia del embajador japonés en las ceremonias del día 20, en la que tomará posesión del mando S. E. el Presidente Ortiz, no menos imperativa

era esa misión nipona, considerando las relaciones especialmente cordiales que existen entre ambos países, ya que, según lo manifestara el propio embajador, antes de embarcarse en Francia con destino a Buenos Aires. "Para el Japón, la Argentina es el país más importante de Sud América, colocándose cerca y en segundo lugar el Brasil".

Por otra parte, la preparación y experiencia que posee el ministro Uchiyama, imbuido en la escuela moderna de la diplomacia japonesa que se distingue por la acción práctica y la sinceridad — principios que están muy de acuerdo con el espíritu argentino — sumado a su conocimiento de la psicología de los pueblos latino-americanos y las condiciones de éstos países, permiten esperar que su presencia en Buenos Aires será una garantía de un mayor acercamiento argentino-japonés, tanto en lo económico como en lo cultural.

La posición especial que ocupan ambos países en sus respectivas esferas de acción, la diversidad de sus producciones que invitan a un intenso intercambio, el espíritu cordial de sus pueblos que no conocen el prejuicio, el clima benigno y similar de los dos países, y hasta la semejanza del ideal humanitario que persiguen, hacen suponer que entre Japón y Argentina puede llegar a formarse un estado de relaciones ideales que servirían de modelo para los demás pueblos.

Señalamos este hecho como posible, puesto que no existe nada que se oponga en su camino, ni en la política ni en el interés económico, mientras que hay razones de sobra para acercarlos más en beneficio mutuo para cooperar por la paz y bienestar del mundo.

EL ARGENTIN DJIJO saluda respetuosamente al señor ministro del Japón y la señora de Uchiyama, deseándoles grata permanencia en Buenos Aires.

de orientales que constituyen la mitad de la población del mundo.

Los que no están convencidos de la sinceridad del propósito del Japón, que sacrifica la sangre de sus hijos y miles de millones de yens para salvar a China, sin que le anime ningún fin de conquista — cosa que no puede comprender la Europa egoísta y conquistadora — si toman la clave que más arriba está indicada, y si estudian detenidamente la historia y la situación actual de esas regiones del mundo, no tardarán en comprender la realidad de las cosas, la verdad del Japón.

La voz del Japón, clara y pura, debe ser escuchada sin prejuicio. La tradición japonesa explica la lealtad y honradez de su acción a través de su larga historia. La demagogia que pinta lo contrario, es como la nube negra que oculta momentáneamente al sol radiante, que no le llega, ni puede taparlo para siempre.

El Japón, en su nota, no les perdona a las potencias, la insolencia de su actitud, que equivale a una intervención velada, falta de respeto hacia la soberana japonesa; ni deja de hacer notar que es una acción incorrecta pretender hacer recaer la responsabilidad de la carrera armamentista entre las potencias, a la sospecha o rumor de cierta construcción en el Japón.

No obstante, señala a las potencias que, si hay sinceridad de propósito, el Japón estaría dispuesto a discutir cualquier programa naval, siempre que esté de acuerdo con los principios sostenidos por él en las últimas conferencias, que es el genuino plan de desarme para todos, sin privilegios para nadie.

Los Estados Unidos, Gran Bretaña y Francia, le dieron al Japón la ocasión de pasar una nota de gran trascendencia histórica, en la que se puede leer — entre líneas — la situación crítica de esas naciones que, uniendo sus fuerzas, creyeron poder debilitar la fuerza que surge vigorosa, potente y radiante cual el Sol Naciente de la mañana.

EL TEXTO DE LA NOTA JAPONESA

Tokio, 14 de Febrero. — Al dar a conocer la respuesta al pedido de informes sobre construcciones navales, formulado por los gobiernos de Estados Unidos, Gran Bretaña y Francia, ante el gobierno Imperial de Tokio, éste hizo la siguiente declaración:

"Al contestar a los Gobiernos de Estados Unidos, Francia e Inglaterra, el Gobierno Imperial de Japón cree firmemente que es necesario informar de su actitud ante el mundo. Insistimos repetidamente en la pasada Conferencia de Londres que el propósito de desarme no podría alcanzarse jamás sino sobre la base de la limitación cuantitativa, y ajustándose a la equidad y a la justicia.

La limitación cualitativa e informes recíprocos no son más que meras caretas del desarme que de ningún modo puede contribuir al verdadero desarme pues evidentemente contribuyen a reparar con la "cantidad" lo que no ha podido con la cualidad de sus buques. Es decir que la tesis sostenida por las potencias signatarias del citado Tratado no solamente no contribuye a la paz mundial sino tam-

Respuesta del Gobierno del Japón

DOCUMENTO QUE SERA HISTORICO EN LAS RELACIONES INTERNACIONALES

La nota respuesta del Gobierno del Japón, rechazando el pedido de informes sobre la construcción de acorazados que le formularon los gobiernos de Estados Unidos, Gran Bretaña y Francia, cuyo tenor anticipamos en nuestro número anterior, fué entregada en Tokio el sábado 12 de febrero a los embajadores de los tres países mencionados.

El Gobierno del Japón rechazó, cortés pero enérgicamente, por improcedente, el pedido de los informes sobre la construcción de buques de guerra formulado por Estados Unidos, Gran Bretaña y Francia, recordándoles los procesos de la última conferencia naval de Londres de la que Japón se retiró — en vista de no encontrar en la reunión la sinceridad hacia el desarme — para aclararles que Japón no es signatario de ningún tratado actualmente en vigencia entre otras potencias, que equivale a decir: Vd. no tiene derecho a indagar lo que yo hago para la defensa de mi país.

La nota del ministro Hirota tiene el valor de un documento histórico en las relaciones internacionales, en lo que se refiere a la ineficacia de la diplo-

macia de la fuerza contra la nación fuerte. Las potencias occidentales han estado acostumbradas a hacer uso de ella con frecuencia, especialmente para con el Oriente, y el Japón fué víctima de ellas en varias ocasiones; pero el Japón de hoy, que está preparado para toda eventualidad, no podía caer en ese engaño nuevamente. Por esa política de la fuerza de las potencias, Japón perdió Port Arthur, no pudo exigir las indemnizaciones de guerra a Rusia; hubo de ceder la antigua posesión alemana de Tsintao a China; se vió atado por la Conferencia de Washington durante 15 años, para no citar sino los hechos más conocidos.

El carácter noble de la política japonesa, inspirada en el idealismo humanitario, que aspira colocar a las naciones del oriente al nivel de igualdad con las del occidente, viene a chocar con el interés de las potencias que pretenden continuar dominando el Asia para siempre, y tendrá que luchar por mucho tiempo hasta convencerlas de su error; pero la razón que le asiste al Japón que no hace sino sostener la justicia humana, le asegura de antemano su triunfo, siempre que el Imperio se mantenga bien fuerte para sostener su derecho.

Si tuvo importancia la entrada del Japón en el concierto de las naciones, la actitud resuelta del Japón de hoy que defiende contra la plaga mundial, el comunismo y los derechos de los orientales pisoteados por los occidentales, abre una época en la historia de la humanidad. Los beneficios de la obra nipona serán gozados por los 1.000 millones

H. KATO

Unica Fábrica Japonesa de Tejidos
de Sedas y Gran Instalación
de Tintorería

HERRERA 2097 y 2111 U. T. 21-1841

¡Beba buen café!

EL CAFE DE SANTOS "AGUILA" está elaborado con los mejores cañús que se importan del Brasil, tostados y con un 10 olo de azúcar abrigantado. ¡Nada más!

Muchos cafés que por ahí se expenden, ¿podrían afirmar otro tanto?

Deduzca Vd. y prefiera el

CAFE DE SANTOS "AGUILA"

ES UN PRODUCTO SAINT.

PAGINA DE ACTUALIDADES

ACTIVIDAD COMUNISTA EN CHINA

Hong-Kong, 14. — La incorporación de las fuerzas comunistas al ejército central se realiza paulatinamente para iniciar la acción antijaponesa. Con este motivo se efectuaron importantes cambios y traslados de los jefes de las fuerzas y de los dirigentes políticos comunistas de China.

EL PELIGRO DE LA EXPANSION NAVAL ANGLO-AMERICANA

Tokio, Febrero 14. — En la declaración que formuló el gobierno japonés a la contestación dada a los gobiernos de Estados Unidos, Gran Bretaña y Francia sobre construcciones navales dice en síntesis que Japón debe tener muy en cuenta la

bién fomentaría poderosamente la carrera armamentista.

Hoy, ante el grave problema de desarmes, el Gobierno Imperial no tiene por qué cambiar de opinión ya que ha tratado siempre con toda sinceridad y con sentimiento de honor y de justicia, resolverlo con el alto ideal de conseguir la Paz, el Progreso y la Justicia para la humanidad.

Tokio, 14. — La aclaración que dió el Gobierno japonés a la contestación enviada a Estados Unidos, Gran Bretaña y Francia, sobre construcciones navales, termina diciendo: "La política naval japonesa estará basada siempre en el lema de no agresión y no amenaza, es decir, que el Japón se contenta con poderse defender libremente ante cualquier enemigo ambicioso, que tenga propósitos expansionistas, sin límites ni escrúpulos. El Japón no abriga la menor intención de agredir a otra nación ni lo intentará nunca.

Japón tiene que defenderse solo ante otras poderosas potencias navales del mundo como Gran Bretaña y Estados Unidos que unidos son enormemente superiores en potencia, a Japón. En estas circunstancias para Japón es realmente imposible satisfacer el pedido que se le ha formulado un tanto no pacífico.

Deja desde luego librado al criterio del mundo si la actitud japonesa ha sido justa o no.

No podemos calificarla de otro modo, sino con la palabra "cobardía" la actitud de las más poderosas potencias navales del mundo al tratar de servirse de injustificados pretextos para realizar sus construcciones cuya intención es para nosotros realmente incomprensible, lo mismo que el manifestar que la "respuesta japonesa no es satisfactoria para ellas".

El Gobierno Japonés teme que la carrera armamentista iniciada por las potencias ya citadas, le obligue a cambiar su programa naval basada sobre los principios de no agresión, no amenaza y de justicia. Pues está dispuesto a no escatimar el mayor sacrificio para la Paz y el bienestar del mundo, iniciando los desarmes cuantitativos en grandes escalas.

Incluya un crucero alrededor del mundo en sus próximas vacaciones

Quando vaya usted a Europa, hágalo pasando por el Oriente

PASAJES MUY VENTAJOSOS

Para informes dirigirse a:

Osaka Shosen Kaisha

Diagonal Roque Sáenz Peña 616. - 2.º piso

solidaridad de Gran Bretaña y Estados Unidos, pues ambas unidas, dado el extraordinario plan de expansión naval de Gran Bretaña, constituirá una gigantesca escuadra, que puede representar un peligro de la paz en Extremo Oriente, y que afecta directamente al Japón.

8.000 CHINOS DERROTADOS EN WU-HAN

Chang-Teh, 14. — Un ejército chino compuesto de 8.000 soldados fué derrotado en las montañas de Wu-Han y él se puso en fuga en dirección a las montañas del noroeste abandonando en los campos de batalla los tanques, municiones y cañones. Estos soldados huyen hacia Tienhsien debido a los nuevos ataques de una nueva unidad japonesa que los persigue tenazmente.

SOLDADOS CHINOS ATACAN A UN PERIODISTA

Sinan, 14. — El fotógrafo de la Agencia Noticiosa Domei, Sr. Funio Yanagizawa enviado en misión especial, fué atacado por los soldados chinos a los 8 kms. de Kifow, a las 12 y media, contra quienes sostuvo una lucha encarnizada durante varias horas hasta que una bala le ocasionó una muerte heroica.

NUEVA BASE ESTRATEGICA CHINA

Peng-Pu, 14. — La nueva base estratégica del ejército chino es Hofei de la provincia de Hanwei. El ejército japonés ya se ha concentrado en esta zona y ha iniciado los ataques contra Hofei. Se espera una enérgica ofensiva japonesa dentro de breve.

LOS CHINOS QUE HUYEN COMETEN ACTOS CRIMINALES

Chang-Teh, 14. — La unidad Morita del ejército japonés, persiguiendo a los soldados chinos ha penetrado al Sur de Chang-Teh. Al abandonar esta ciudad y los pueblos circunvecinos, los soldados chinos envenenaron todos los pozos de agua potable, y en todas las puertas de las casas colocaron bombas que fueron descubiertas oportunamente, evitándose daños.

EL PANICO EN HANKOW

TOKIO, febrero 15. — Según informaciones telegráficas del diario "Asahi", procedentes de Shanghai, el pánico producido en el gobierno nacionalista chino de Han-Kow, ha llegado a su extremo al tener éste la noticia de los rápidos avances de las fuerzas japonesas a lo largo de los F. C. C. Tiensin-Pukow y Nankín Han-Kow. Se cree que la caída del F. C. Lung-Hai, es inminente.

Debido a este peligro inminente el gobierno chino tomó la decisión de dividir el grueso del ejército concentrado en los alrededores de Suchow para distribuir la mayor parte de éste a lo largo del F. C. Lung-Hai.

Con tal motivo se dice que el gobierno se prepara para trasladar su sede a la ciudad de Wunan, pues no hay ninguna esperanza de poderse defender en Wuchung ni mucho menos en Hankow.

NUEVAS ACTIVIDADES COMUNISTAS

TOKIO, febrero 15. — Comunican de Wuchang y de Han-Kow, la acción comunista en esta zona no se limita sólo a esto, sino que aprovechando las continuas derrotas del gobierno chino trata ahora, empleando todos los medios, que estén a su alcance, de expulsar a los más influyentes del gobierno chino a quienes había prestado toda clase de ayuda para instigar contra los japoneses.

Es, así como en Suwan los comunistas se empeñan sin escrúpulos en provocar disensiones internas de las autoridades chinas para apoderarse de esta zona.

Por otra parte, la aviación rusa llegada a China con el exclusivo propósito de socorrer a los chinos se dió vuelta abiertamente contra el Estado Mayor Chino para desplegar sus actividades en favor de la creación de un gobierno comunista, en el Noreste de China.

EMISION DE BONOS PATRIOTICOS

TOKIO, febrero 15. — La segunda emisión de bonos de empréstito patriótico por un valor de 50 millones de yens fué vendida totalmente a pocas horas de ser puesta en el mercado.

LA AMENAZA DE SINGAPUR

SHANGHAI, febrero 15. — N. Kung, comentarista chino de asuntos internacionales, comenta en los siguientes términos la inauguración de la base naval de Singapur: "En el siglo pasado, Europa conquistó gran parte de Asia, haciéndonos conocer sus gigantescas naves y sus poderosos cañones. Pero, la fuerza no ha sido suficiente para dominar el viejo espíritu continental y el espíritu nacional que trabajaba para adquirir su perdida independencia. Para mantener sus conquistas, y mantener sojuzgados a los pueblos asiáticos nos construye ahora en el mismo corazón de Asia la fortaleza más gigantesca que se ha construído en todos los tiempos, de donde han de partir hacia los cuatro puntos cardinales los elementos de destrucción y muerte ante el menor amago de los pueblos del Oriente, para recuperar su antigua independencia. Es este, pues un día de grandes preocupaciones para las naciones asiáticas.

RESIDENCIA OFICIAL DEL MINISTRO DEL JAPON

La Legación del Japón anuncia que la nueva residencia oficial del ministro del Japón, ha sido fijada en la calle Loreto 1748.

Ing. **CHIBATA UCHIDA**

Ha regresado a Buenos Aires, el Ing. Chibata Uchida, agregado a la legación del Japón, quien se hallaba radicado en Asunción del Paraguay desde hace 2 años.

Sr. **NAOJI SAITO**

Llegó ayer a esta capital, el señor Naoji Saito, agente de la Oficina de Informaciones Comerciales del Japón, quien viene con la misión de fomentar el intercambio argentino-japonés.

Sastrería Japonesa

Fundada en el año 1916

de *S. Katayama*

PIEDRAS 572

U. T. 33-5452

Importancia Mundial del Japón

DISERTACION DE G. YOSHIO SHINYA, POR RADIO CULTURA, EN OCASION DEL ANIVERSARIO DEL IMPERIO

A la gentileza de las autoridades de Radio Cultura, dignos exponentes de la cultura argentina, cuya simpatía para con el Japón es conocida, debo esta oportunidad para mí muy grata de dirigirles la palabra a los no menos amables radioescuchas que sintonizan las transmisiones de esta broadcasting ya muy popular en toda la República, para hablarles acerca del lejano país del Sol Naciente que, al decir del Dr. Garbarini Islas, está cercano al corazón argentino. En efecto, los seis mil nipones residentes en la Argentina viven tan felices como en su propia casa, satisfechos de su trabajo y agradecidos por la hospitalidad de este generoso pueblo, y sólo esperan contribuir, dentro de su modesta escala, al engrandecimiento de esta gran nación.

Celebra hoy una fecha muy fausta el Imperio Nipón. Dos aniversarios de gran significación en su historia: la fundación del Imperio por Jimmu Tenno en el año 660 antes de Cristo, esto es 22 siglos antes del descubrimiento de América por Cristóbal Colón, y la promulgación de la Constitución Política del Imperio del Japón, que recayó también en el mismo día — 11 de febrero — del año 1889, que, sin alterar las características tradicionales del Yamato, adaptando el sistema institucional de los países occidentales, echó las bases de la organización moderna del país que hubo de conducir al Imperio hacia la grandeza actual.

La historia del Japón es larga y compleja. Su existencia honrosa de 26 siglos como nación independiente, sin que haya sido jamás invadido su territorio por fuerzas extranjeras, que ostenta con orgullo la familia reinante más antigua del mundo que sigue siendo venerada hoy como ayer por sus leales súditos, compuestos de una raza homogénea, que respeta al jefe del Estado, por quien siente el afecto familiar al considerarlo como jefe de la familia nacional, lo cual constituye la razón fundamental de la unidad y disciplina nacional del Imperio.

Y, si la cultura milenaria del Japón, cuya investigación interesa a los estudiosos del Occidente como fuerza espiritual del Imperio, la civilización moderna del Japón que le da esa distinción peculiar contiene la clave de un progreso actual que es motivo de admiración del mundo, tiene que resultar, no solamente interesante, sino provechoso para los pueblos jóvenes.

La importancia de la aparición del Japón en el concierto internacional tiene más importancia de lo que parece a primera vista, puesto que allí se ha creado una nueva civilización que armoniza a las dos grandes civilizaciones antagónicas de antaño, admirablemente adaptadas para asimilar lo mejor que tienen ambas.

Es así que el Japón, siendo país oriental, está convertido en defensor de la civilización occidental en el Oriente, y lucha contra la plaga social denominada "comunismo", y con grandes sacrificios trata de civilizar a China que vive el sueño de su grandeza pasada, sumida en la miseria y en caos, amenazada por añadidura por el bolcheviquismo.

El incidente chino-japonés del presente no obedece, sino al plan humanitario y justicia universal que aspira el Japón en los países orientales,

sin ningún interés egoísta, porque el Japón desea que los orientales tengan el mismo derecho por la libertad, igualdad y fraternidad de que hablan los occidentales para ellos solos en perjuicio del resto de la humanidad. El fondo del conflicto actual tiene enemigos ocultos fuera de China que defienden lo que ellos creen su derecho, sin miramiento a los beneficios de los orientales.

La guerra del Japón es justa, es una guerra santa por el derecho y la justicia universal.

Quien comprende al Japón y los japoneses, puede darse cuenta cabal de estas cosas que son de interés general para todos.

He dicho.

Conferencia del Dr. Victorio Franceschini, becado universitario argentino para estudiar la Cultura Japonesa, pronunciada por Radio Cultura el domingo 12 de febrero último, titulado:

Ante la inminencia de un viaje al Japón

La gentileza de la señora Laura Piccinini de De La Cárcova — virtud exquisita entre tantas otras que caracterizan su espíritu —, se ha traducido en una invitación que me honra y a la que he accedido sin ambages para hablarlos, en pocos minutos, de una emoción argentina que vibra en nuestros espíritus, ante la inminencia de un viaje al Extremo Oriente.

Al Dr. Alberto Pelicano y a quien os habla, el Instituto Cultural Argentino-Japonés del Museo Social Argentino, que preside el contraalmirante Pedro S. Casal, ha otorgado con los auspicios del gobierno Imperial del Japón, dos becas de perfeccionamiento de estudios para la ciencia y cultura japonesa respectivamente, que realizaremos en ese país.

Hace cuatro meses, aproximadamente, los diarios comunicaron la noticia del concurso para las mismas. Nos presentamos a optar a dichas becas con el espíritu pleno de esperanzas y con el deseo vivísimo de convertir en realidad uno de nuestros sueños más grandes: conocer el Japón, ese Japón del color de la poesía, del encanto, ese Japón de nuestras estampas de escolares, en las que vimos asomar los templos shintoístas de arquitectura barroca, coronados de cerezos en flor, las cornisas caseras con sus linternas de colores diversos, los paisajes inundados de eternal belleza.

Diríase que el Japón viviera la suerte de la poesía que encarna en su flor nacional, el cerezo, derramada a todos los vientos enviando su perfume silvestre, ligero, que jamás embriaga porque su cualidad es "fragancia etérea como el alimento de la vida".

El día se enriquece de esplendor cuando la deliciosa visión de la sakura anima el paisaje matinal. Se olvidan las fatigas y las tristezas y se tonifica el espíritu con la emoción de la alegría creadora, divulgadora de energías.

El Japón de nuestras estampas de la infancia, el Japón de las niñas de plata, de pupilas amorosas, de sienes coronadas de cerezos y glicinas, el Japón de las mariposas que regalan vuelos sobre el ambiente preñado de ensueño...

El Japón del Shosei, el estudiante despreocupado que vive más cerca de los astros que de la tierra, aquél que pasea indiferente ante las cosas del mundo con un libro bajo el brazo, pregonando la opulencia de sus sueños que enredó a una estrella vega.

Además de la ansiedad estética que nos embarga, no es menos grande el deseo de imbuirnos de la cultura japonesa, rica en todos los órdenes

de su vida. El Japón — como bien afirma el publicista japonés residente entre nosotros, señor G. Yoshio Shinya en su celebrado libro "El Imperio del Sol Naciente" — ofrece a los estudiosos la clara ilustración de los principios envueltos en la evolución social". El que comprende realmente al Japón tiene ganada la llave mágica que revela los misterios sociales del Oriente en general".

En efecto: la extraordinaria organización institucional del Japón ha despertado la admiración de todo el mundo, como así mismo en su aspecto cultural. Es interesante la evolución que ha experimentado después del período del sakoku (aislamiento).

La avidez intelectual, la fuerte asimilación de lo mejor de la cultura extranjera, sin menoscabar su individualidad, han creado un temperamento singular — modelando el espíritu nacional —. Nada ha descuidado el Japón la educación basada en los principios de una moral rígida, el culto de los antepasados, el respeto y la disciplina a la organización institucional. Si bien la instrucción pública es laica, la educación moral es preocupación constante, ya que el gobierno Imperial no ha creado escuelas exclusivamente con el fin de instruir. La educación espiritual ha merecido desde la iniciación de la época en que se democratizó la enseñanza, la necesaria atención: los maestros inculcan principios morales ya que el objeto es estimular "el desarrollo de las ideas y la práctica de las virtudes".

La educación en el Japón — cuyos problemas tendré el honor de estudiar en la fuente originaria de su grandeza — desde la época del gobierno de Meiji, fué seriamente atendida. El Emperador Mutsuhito declaró en un edicto: "De aquí en adelante, no habrá una familia analfabeta en una aldea, ni un individuo analfabeta en una familia en todo nuestro Imperio".

Desde entonces la enseñanza oficial y privada ha merecido la más estricta fiscalización y sus progresos fueron crecientes.

En el Japón más del 20 por ciento de su población total está compuesta de estudiantes. En el Imperio hay 46.910 escuelas de diversas clases, con un cuerpo docente de 324.165 personas de ambos sexos; 25.606 escuelas primarias, 15.297 de categoría común, 1.294 jardines de infantes; 950 liceos para señoritas; 550 colegios nacionales; 61 institutos de profesorado; 40 universidades, etcétera. Estos datos estadísticos hablan eloquentemente de la importancia que ofrece la faz educacional del Japón que ha despertado la atención de muchos maestros de los principales centros pedagógicos del mundo.

En el Japón no existe analfabetismo, ya que sólo se ha constatado un 0,52 por ciento de analfabetos entre los varones de veinte años.

La instrucción femenina ha alcanzado un grado tal de difusión que se puede afirmar que en la clase media no hay mujer que no posea instrucción primaria y secundaria.

Iremos, pues, al Japón culto, al Japón del gran desenvolvimiento educacional a beber en forma directa su organización, a traducir la inquietud de los maestros argentinos, a acortar distancias con nuestro entusiasmo y nuestra fe.

De la mutua comprensión de los ideales de cultura todo puede esperarse, es por eso que nuesra emoción es muy grande al pensar que nos toca en honra ser los primeros universitarios que llevarán al Japón la palabra Argentina — y ojalá sea la iniciación de un intercambio intelectual que permita el conocimiento mayor de nuestros hombres de estudio, de nuestras instituciones y de nuestro ideal —.

Deseamos significar que el Instituto Cultural Argentino-Japonés y la Kokusai Bunka Shin'yokai (Sociedad de Fomento de la Cultura Internacional) por medio de su miembro correspondiente en Buenos Aires, llevan realizada una obra interesante en favor del intercambio cultural entre ambos países y que estas primeras becas otorgadas a dos argentinos, han de rubricar el programa que anima a la institución en nuestro país.

Muchas gracias.

LAMPARAS "YAMADA" DE CALIDAD



Luz Clara - Terminación Prolija - Selección Especial

USE LAMPARA "YAMADA"

En venta en las buenas casas del ramo

Del Libro del Té

Ofrecemos a los lectores del ARGENTIN DJIJO algunos fragmentos de la conocida obra del Dr. Kakuzo Okakura titulado "El Libro del Té", que en breve será publicado por el Instituto Cultural Argentino-Japonés.

El Dr. Okakura, literato de la escuela idealista, educado en Japón y en Norte América, especializado en el estudio de las civilizaciones, ha dejado trabajos de valor, además de su contribución en el mundo del arte en calidad de fundador y primer presidente de la Academia de Bellas Artes del Imperio.

LA COPA DE LA HUMANIDAD

En sus comienzos, el té, antes de llegar a ser una bebida, fué una medicina.

Hasta el siglo VII no hace su entrada en China en el reino de la poesía, ni pasa a ser una distracción de los elegantes de la época.

En el siglo XV el Japón lo ennoblece y hace de él una religión estética: el TEISMO. El teísmo es un culto basado en la adoración de lo bello sobre todas las vulgaridades de la existencia

cotidiana. Inspira a todos sus fieles la pureza y la armonía, el misterio de la caridad mutua, al sentido del romanticismo y el orden social. Es esencialmente el culto de lo imperfecto, puesto que significa un esfuerzo para realizar lo posible en esa cosa imposible a la que llamamos vida.

La filosofía del té no es una sencilla estética en la ordinaria acepción del vocablo, porque nos ayuda a experimentar, conjuntamente con la ética y con la religión, nuestro concepto integral del hombre y de la naturaleza. Es una higiene, puesto que obliga a la limpieza. Es una economía, puesto que demuestra que el bienestar se da más bien en la sencillez que en la complejidad y el despilfarro. Es una geometría moral, puesto que define el sentido de nuestra proporción en relación con el Universo. Representa, por último, el verdadero espíritu democrático del Extremo Oriente en cuanto convierte a todos sus adeptos en aristócratas del gusto.

El hecho de que el Japón se haya encontrado durante tanto tiempo aislado del resto del mundo, ha contribuido poderosamente a desarrollar la afición a la vida interior, a propagar el teísmo. Nuestras casas y nuestras costumbres; nuestra manera de vestirnos y nuestra cocina, nuestra porcelana, nuestra loza, nuestra pintura, y hasta nuestra literatura, todo entre nosotros ha sufrido su influencia. Nadie que conozca la cultura japonesa puede ignorarlo.

De la misma manera ha penetrado en las casas más nobles y más elegantes que en las moradas más humildes. Ha enseñado a nuestros campesinos el arte de cultivar las flores y ha imbuido al

más humilde trabajador el respeto para con las piedras y para con el agua. En nuestro lenguaje usual se dice corrientemente al hablar de un hombre insensible ante los episodios trágicos del drama individual, que "carece de té" (mu-cha). Y se celebra, por el contrario, al esteta gozador, que, indiferente a la tragedia mundana, se abandona sin reglas, con toda libertad, a la corriente de sus emociones, diciendo de él, que "tiene mucho té".

Un extranjero se asombrará, sin duda, de que en este orden de cosas se pueda hacer tanto ruido para nada: "Qué tempestad en una taza de té", dirá. Pero, después de todo, si se considera lo pequeña que es la copa de la alegría y qué pronto se desborda en lágrimas, que fácilmente en nuestra inextinguible sed de infinito la vaciamos hasta las heces, no se nos motejará el que tanta importancia concedamos a una taza de té.

La Humanidad lo ha hecho peor.

Hemos sacrificado con demasiada libertad en el culto de Baco; hemos llegado a transfigurar la imagen sanguinaria de Marte; Por qué, pues, no hemos de consagrarnos a la reina de las Calélias? ¿Por qué no hemos de abandonarnos a la cálida corriente de simpatía que desciende de sus altares?

En el líquido ambarino que llena la taza de porcelana marfilina, el iniciado puede gustar la exquisita reserva de Confucio, la excitación de Lao Tsé y hasta el aroma etérico de Shakamouni.

<p>"NAMBET" Compañía de Importación y Exportación Sociedad Anónima Telegramas "NAMBET" U. T. (38) 3001, 3002, 3003, 3004, 3006 y 3571 T. T. Buenos Aires, 904 SARMIENTO 470 BUENOS AIRES</p>	<p>T. NISHIZAWA Representante de Mitsubishi Shoji Kaisha, Ltda. FLORIDA 229 U. T. 38-5466</p>	<p>F. KANEMATSU y Cía. Ltda. Importaciones y Exportaciones JUJUY 136 - U. T. 45, Loria 5823 y 5824</p>	<p>S. TSUJI Importador BALCARCE 682 - U. T. 33 Avda. 5744</p>
<p>H. KATO Única Fábrica Japonesa de Tejidos de Sedas y Gran Instalación de Tintorería HERRERA 2007 y 2111 - U. T. 21-1841</p>	<p>S. YAMADA y Cía. Importadores MORENO 2039 U. T. Cuyo, 47-4854 y 4405</p>	<p>PIDA SIEMPRE Marca KANEBO PARA TEJIDOS Avda. ROQUE SAENZ PEÑA 989 U. T. 35-7632 8.º piso Oficina D</p>	<p>LA MAISON SATUMA K. YOKOHAMA Objetos de Arte y Antigüedades ESMERALDA 1080 - U. T. 31-8601 Sucursal: SUIPACHA 865 - U. T. 31-4837</p>
<p>SADAO HATTORI IMPORTADOR Especialidad en artículos de Cepillería LINIERS 649 - U. T. 45, Loria 321P</p>	<p>IIDA y Cía. Ltda. (Takashimaya) Importadores y Exportadores RODRIGUEZ PEÑA 162 U. T. Mayo 38-3419</p>	<p>M. OMURA Importador de artículos generales del Japón SAN MARTIN 235 - U. T. 38-2683</p>	<p>G. KATO (C. YUASA) Representante de KATO BUSAN KAISHIA Ltd. Av. Roque Sáenz Peña 825 U. T. 35-5696</p>
<p>KATSUDA y Cía. Importadores MEXICO 1474 - U. T. 38, Mayo 2313</p>	<p>R. HARA y Cía. Importadores BELGRANO 1470 U. T. Mayo 38-2438 y 9487</p>	<p>S. ANDO y Cía. Importadores DEFENSA 532-40 U. T. 33 (Av.) 2296</p>	<p>Sastrería JAPONESA Fundada en el año 1916 de S. KATAYAMA PIEDRAS 572 - U. T. 33-5452</p>
<p>B. TAKINAMI Importador Casa Establecida en el año 1905 VICTORIA 733 - U. T. Mayo 38-8413</p>	<p>CARLOS C. ISHIY Importador y Exportador Bm. MITRE 341 - U. T. 33 Avda. 9782</p>	<p>JIRO HONDA y Hno. Importadores de Artículos Generales del Japón MORENO 1320 - U. T. 38 Mayo 2718</p>	<p>GUIA JAPONESA LEGACION DEL JAPON: Reconquista 336. - U. T. 31-3193. CONSULADO DEL JAPON: Reconquista 336. U. T. 31-3193.</p>
<p>I. HIROTA Importador de artículos generales del Japón CHILE 1029 - U. T. 37 (Riv.) 1051</p>	<p>S. YOKOBORI Representante de FUJISAKI y Cía. CANGALLO 499 3er. Piso Escr. N.º 21-22 - U. T. 33-9390</p>	<p>Casa "YAMANAKA" Oriental Fine Art Curious VIAMONTE 624 - U. T. 31 7846</p>	<p>CAMARA DE COMERCIO JAPONESA: Avenida Roque Sáenz Peña 618 - U. T. 33-1452. INSTITUTO CULTURAL ARGENTINO-JAPONES: Viamonte 1435.</p>
<p>N. IKEDA The National City Bank of New York BARTOLOME MITRE 502 U. T. Avenida 33 - 4031</p>	<p>TARO MURAI Única Casa Introdutora de Porcelana "NORITAKE" MAIPU 463 - U. T. Retiro 31-3189</p>	<p>K. YASUNAGA Compañía Argentina, Comercial e Industrial de Pesquería DEFENSA 1597 - U. T. 33-7769</p>	<p>ASOCIACION JAPONESA: Patagones 840. - U. T. 23-4993. COMPANIA DE VAPORES O. S. K.: ROQUE S. PEÑA 616 - 2.º Piso U. T. 33-1051 - 1052 - 1053 y 3565</p>